

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 12 月 25 日作成)

小委員会名	地盤震動小委員会		主 査 名：加藤研一 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 振動運営委員会		委員長名：和田 章 主 査 名：三浦賢治
設 置 期 間	2005 年 4 月 ～ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤震動に関する研究上の諸問題、研究状況、動向を把握 ・毎年シンポジウムおよび地域交流会を開催し、地盤震動研究の方向付けを行う ・これまでの委員会活動の総まとめとして、「最新の地盤震動研究を活かした強震波形の作成法」を刊行する 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：加藤研一(鹿島建設) 幹事：山中浩明(東京工業大学)・野畑有秀(大林組) 委員：岩田知孝(京都大学)・釜江克宏(京都大学)・川瀬 博(九州大学)・鎌田泰子(神戸大学)・小山 信(建築研究所)・高井伸雄(北海道大学)・青井 真(防災科学技術研究所)・大野 晋(東北大学)・神野達夫(広島大学)・飛田 潤(名古屋大学)・境 有紀(筑波大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	シンポジウム企画 WG：地盤震動シンポジウムの企画・立案 地震動作成指針刊行 WG：刊行物の企画・調整・編集		
2008 年度予算	540,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s4/index.htm	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 『最新の地盤震動研究を活かした強震波形の作成法』
講習会	1. 講習会「最新の地盤震動研究を活かした強震波形の作成法」 参加者数 185 名
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 36 回地盤震動シンポジウム「度重なる被害地震から設計用入力地震動を考える ―新・入力地震動作成手法の使い方と検証(その 2)―」 参加者数 167 名 『同名資料』 2. 第 28 回地盤震動地域交流会 (2008) 参加者数 40 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 例年どおりシンポジウムと地域交流会を開催し、いずれも盛況であった 2. 『最新の地盤震動研究を活かした強震波形の作成法』を 2009 年 3 月に刊行し、講習会を開催 3. 新たな中長期テーマ「頻発する被害地震の地震動特性の解釈と入力地震動作成手法への反映」のもと、小委員会活動をさらに活性化させた
委員会活動の問題点・課題	1. 開催したシンポジウムや地域交流会への関心は高く、特に問題点はない 2. 「設計用入力地震動作成指針」として刊行物を企画・執筆したが、「指針」として出版することに慎重な意見があり、「強震波形の作成法」として出版 3. 実務者を交えて「予測強震動」と「設計用地震動」を繋ぐ議論が必要